

## 2.豚の敗血症における腎臓病変の比較検討

○下司 高弘（豊橋食肉衛生検査所）  
岡地 潔（ ” ）  
松田 克也（ ” ）  
山内 俊平（ ” ）  
細井 美博（ ” ）

### 【はじめに】

と畜検査でみられる敗血症の所見は、急性期とは異なり疣贅性心内膜炎や腎臓の間質性腎炎等の慢性病変を認める場合が多い。今回我々は、豚の敗血症における腎臓病変に着目し、病理学的検索を行った。さらに病原菌を分離し、腎臓病変との関連性について比較検討したので概要を報告する。

### 【材料及び方法】

2012年6月22日から12月26日までに管内と畜場に搬入された豚119,971頭のうち、敗血症（心内膜炎型豚丹毒を含む）と判定した49頭(0.04%)を調査対象とした。腎臓の病理学的検索：肉眼で精査後、10%中性緩衝ホルマリン液で固定し、定法に従いパラフィン切片を作製し、病理組織学的検索を行った。2.疣贅物及び腎臓の細菌学的検索：心臓に形成された疣贅物及び腎臓について、捺印塗抹検査後、37℃で48時間培養した。なお、好気培養は5%馬脱繊維血液加トリプトソーヤ寒天培地に、嫌気培養は変法 GAM 寒天培地にそれぞれ接種した。また豚丹毒を疑った場合は、アザイド寒天培地も併用し分離した。分離菌は生化学性状に加え、API Staph、API 20 Strep、API 20 A(以上シスメックス・バイオメリュー)及びIDテスト・EB-20(日水製薬)を用いて同定した。

### 【結 果】

1.対象全てで疣贅性心内膜炎を認めた。疣贅物は左心弁膜:59.2%(29/49)、右心弁膜:20.4%(10/49)、両心弁膜:20.4%(10/49)に形成されていた。腎臓の病理組織学的検索では、間質性腎炎:77.6%(38/49)、点状出血:69.4%(34/49)、梗塞巣:20.4%(10/49)、癒痕組織:8.2%(4/49)等を認めた。また病変がみられなかったものが16.3%(8/49)あったが、このうち87.5%(7/8)は右心弁膜に疣贅物が形成されていた。2.全ての疣贅物から菌が分離され、このうち2種類分離されたものが8.2%(4/49)あった。分離された53菌種のうち、*Streptococcus*属が最も多く75.5%(40/53)となった。その内訳は*S.suis*:50.9%(27/53)、*S.bovis*:13.2%(7/53)、*S.dysgalactiae* ssp. *equisimilis*:9.4%(5/53)、*S.dysgalactiae* ssp. *dysgalactiae*:1.9%(1/53)であった。さらに *Erysipelothrix rhusiopathiae*:7.5%(4/53)、*Arcanobacterium pyogenes*:3.8%(2/53)、*Staphylococcus aureus*:1.9%(1/53)、*Escherichia coli*:1.9%(1/53)、グラム陰性桿菌:5.7%(3/53)、グラム陽性球菌:3.8%(2/53)が分離された。